

男女共同参画の視点から分かる災害時の課題



課題① 避難所での「防犯」～安心を守るために～

避難所は、明かりが消えた夜間や人気のない場所での犯罪や性暴力が増える恐れがあります。(男性が被害にあうことも)

危険を感じたときには、周囲に知らせる、防犯ブザーを使う、一人にならないなどの行動が、自分の身を守るにつながります。

課題② 見落としがちな「生活用品」～家庭での備え～

災害の備えは、水や食糧ではありません！避難生活では、日常生活に必要な用品が不足しやすくなります。特に、生理用品、おむつやおしり拭き(使い慣れたサイズ)、デリケートゾーンの衛生用品は自分で備えておくことが重要です。

「いつもの買い置きを少し多めに」するローリングストックで、無理なく備えましょう。



課題③ 運営の偏りをなくす～リーダー層に多様性を～

過去の災害では、避難所の防災リーダーに女性が少なかったため、ケア役割(子育て、介護・介助、栄養・衛生等)の視点が不足し、要望が反映されにくいことが課題となってきました。それを解消するためにも、日頃から家庭や地域・職場での男女共同参画や多様性を進め、支え合う地域づくりが必要です。



出典:「男女共同参画の視点で取り組む 地域で共に支え合う防災」 栃木県・(公財)とちぎ男女共同参画財団

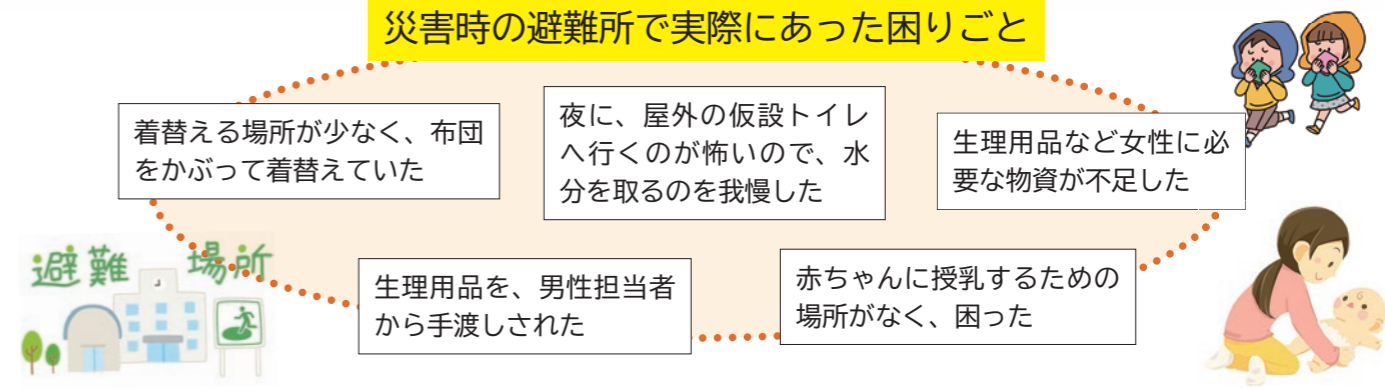
みんなで備える防災 ～多様な視点が命を守る～



問 人権・男女共同参画課 ☎(21) 2162

栃木市では、性別にかかわらず、誰もが生き生きと暮らし、豊かで活力ある男女共同参画社会を目指し、取り組んでいます。これまでの災害の課題から、防災に男女共同参画の視点の重要性が明らかになってきました。いつ起こるか分からない災害に備えるためにも、過去の災害の様子から、人々がどのような困難に直面してきたのか知っておきましょう。

災害時の避難所で実際にあった困りごと



過去の災害の避難所の様子から、災害は、すべての人に平等に降りかかるが、年齢、性別、障がいの有無、家庭状況などによって、受ける影響が異なることがわかりました。

引用・参考:「男女共同参画の視点に立った避難所づくりについて」内閣府男女共同参画局 「平成24年版男女共同参画白書」内閣府男女共同参画局



多様な視点・男女共同参画の視点とは？

性別・年齢・立場の違いに関わらず、さまざまな立場の人が運営や意志決定に関わることで、視点が広がり、誰もが安心して過ごせる避難所に近づきます！

障がいの  
ある方

子ども

女性

それぞれのニーズに配慮することが大切です

外国人

男性

高齢者



とちぎ市男女共生大学 おやこ防災講座を開催します

親子でいっしょに身近な防災について考えてみませんか？  
ご家庭ですぐに取り入れられる防災術がわかります！



- 日時 6月28日(日) 10時～11時30分
- 場所 きららの杜とちぎ蔵の街楽習館(栃木市市民交流センター)1階大交流室
- 講師 栃木県防災士会 防災士 大森敦子氏
- 定員 親子20組(小学1年生以上のお子さんと保護者、1家族2～3人)
- 参加費 無料
- 申込 6月1日(月)～19日(金)に、2次元コードから申込(先着順)

栃木県男女共同参画推進員募集

豊かで活力ある男女共同参画社会の実現に向けて、地域、家庭、職場等において男女共同参画の普及啓発活動を行う方を、本人の申込に基づき栃木県知事が委嘱します。  
詳しくは、栃木県のホームページをご覧ください。

